

3月末に調査した2006年4月の「消費意欲指数」の結果がまとまりました。
2006年4月の消費意欲は、先月と同じ
53.4点でした。

4月としては、2002年以降での最高値を記録。

「消費意欲指数」は、月別の消費の先行指標として、1993年より注目されているデータです。

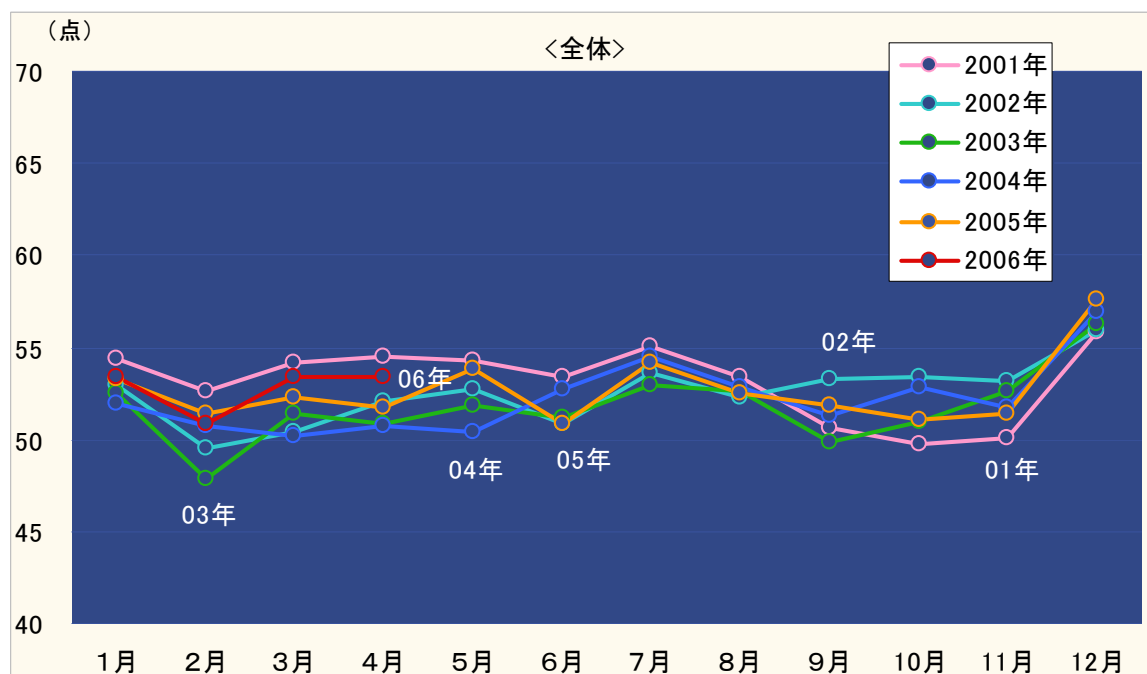
3月末時点で、博報堂生活総合研究所の調査パネルである一般生活者420名に対し「消費意欲(モノを買いたい、サービスを利用したいという欲求)が最高に高まった状態を100点とすると、あなたの4月の消費意欲は何点ぐらいでしょうか?」と質問した結果が、「4月の消費意欲指数」です。

この消費意欲指数は、月別の消費を占う先行指標として、1993年4月の調査開始以来、幅広く活用して頂いています。

2006年4月の消費意欲指数は、先月と同じく53.4点でした。

4月の消費意欲指数は、先月と同じく53.4点となりました。前年同月比では1.7ポイントの増加で、4月としては2002年以降での最高値となり、好調を維持しています。

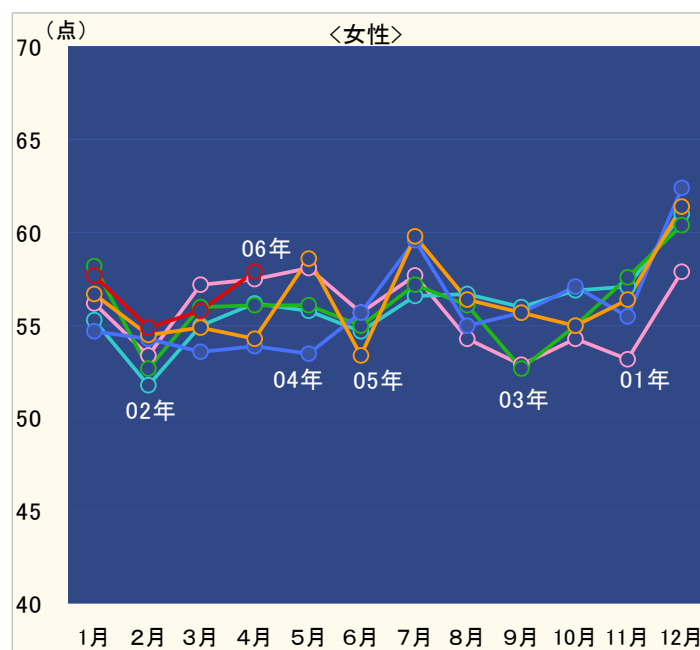
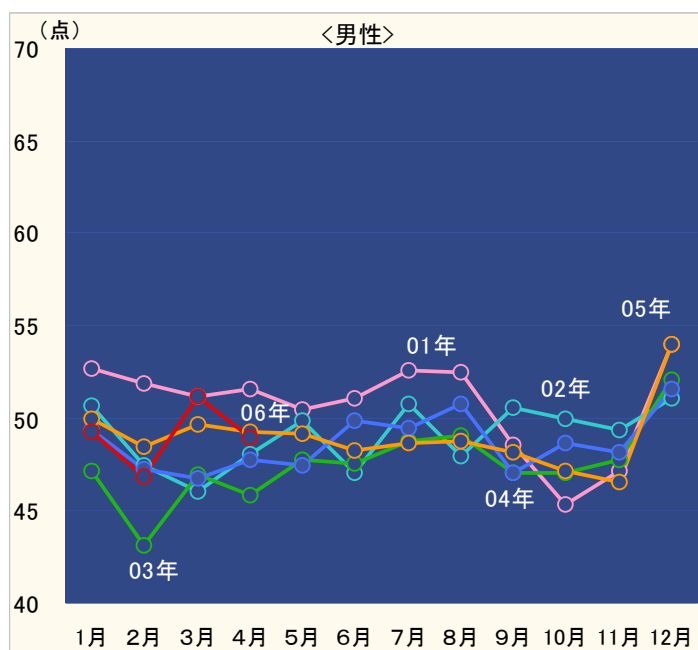
政府やマスコミで発表される各種統計をみても、所得増や消費者心理の好転がうかがえ、個人消費が拡大しつつあるといえそうです。ちょっと高くてもいいものを、という気分が高まったのか、生活者の財布のヒモも少し緩んできたようです。また、夏のボーナスが昨年より増加するのではという予測もあり、レジャーや遊びなどお金を使う機会が多い初夏に向け、消費意欲の更なるアップが期待されます。



女性の消費意欲が好調を維持、4月としては2001年以降で最高値を記録。

4月の男女別の消費意欲指数をみると、男性が - 2.1ポイントで49.0点、女性が + 2.2ポイントの57.9点となりました。前年同月比では男性が - 0.2ポイント、女性が + 3.6ポイントでした。女性は先月比、前年同月比とも大きく伸びており、4月としては2001年以降での最高値となりました。

同時に調査をしている生活力点をみると、「大きな値の張る買い物」「中くらいの買い物」「日常的な買い物」のいずれも平均的な数値に落ち着いてきました。それに代わって目立つのは男女とも「余暇・レジャー」の項目で、初夏に向けて行動型の消費意欲が高まりつつあると言えそうです。



博報堂生活総合研究所のHP (www.athill.com)では、「消費意欲指数」も含め、生活者に関する調査データにご自由にアクセスすることが可能となっております。是非一度ご覧ください。

【調査概要: HILL ネット調査】

調査地域: 首都圏 / 調査対象者: 19~73才の男女個人 420人 / 調査方法: 郵送法

本件に関する詳細のお問い合わせは
博報堂生活総合研究所 (03-3233-6450) までお願いいたします。

